

昭和 60 年春季 (第 109 回) 講演大会討論会 討論講演募集のお知らせ

会 告

昭和 60 年春季 (第 109 回) 講演大会に開催されます討論会講演を下記により募集いたしますので奮つてご応募下さるようご案内いたします。

1. 討論会テーマ

1) 高炉における装入物分布制御 座長 渋谷 悌二

高炉の大型化に伴つて装入物の分布制御は重要な課題となり、設備面でムーバブル・アーマーあるいは新形式の装入装置の採用がはかられて来た。装入物分布は装入物の落下衝撃力、ヨークス層の崩れなど多くの要因の影響をうけ、これらは模型実験によつて解明されその知見が実高炉に適用されている。今回装入物分布に関する実験成果と実高炉への適用を中心とし、更に小粒装入物の装入方法などきめ細かな分布制御について討論を行いたい。

2) 高浄度鋼製造における介在物の挙動 座長 坂尾 弘, 座長 成田 貴一

高浄度鋼製造の立場より、溶鋼の精錬、鑄造、凝固過程における介在物の挙動、すなわち介在物生成元素の異相間分配、介在物の生成・成長、質的(形態)変化、凝集・分離、偏析などの基本的現象、浄度評価技術、さらに生産技術上における諸問題について討論し、高浄度鋼製造技術の確立に関する科学的指針を明確にしたい。

3) 管・型材の冷間ロール成形技術 座長 神馬 敬

騒音の少ない生産速度の高い回転塑性加工としての特質を評価されて、最近の冷間ロール成形技術は、軽量形鋼、電縫管、自動車用パンパ、モールなど、真直な長尺品ばかりでなく、湾曲した長尺品の量産に広く使用されるようになった。本討論会では、ロールの CAD/CAM、成形機の FMS 化、異種加工との複合化、薄肉及び厚肉材の溶接技術、成形品の残留応力制御など、冷間ロール成形技術の発展のために、各方面からの発表と活発な討論を期待する。

4) 薄板・表面処理鋼板の表面解析とその応用 座長 新居 和嘉, 副座長 中岡 一秀

近年の表面解析手法の発達により、鋼板の表面もかなり多くのことが分かるようになってきたが、まだ表面性状と材料性能とは十分に相関づけられていない。そこで今回は薄板、ステンレス鋼及び各種表面処理鋼板について、種々の表面解析手法による表面キャラクタリゼーション、それから得られた情報による素材や製造プロセスの解析、さらに鋼板の表面処理性や耐食性との相関などについて、現在の技術レベルとその問題点の確認、今後の研究の方向についての討論を行う。各方面からの発表と活発な討論を期待する。

5) オンライン分析技術の最近の進歩 座長 大坪 孝至, 副座長 角山 浩三

近年、精錬技術の著しい進歩に伴い溶鋼(溶銑)の成分調整が多段化している。また、連続鑄造技術が普及し、さらに鑄片の直送圧延も実用化されている。これらは、すべて溶鋼(あるいは鑄片)の化学成分が迅速にしかも正確に分析でき、それら分析値が直ちにフィードバックあるいはフィードフォワードされてはじめて、その真価を発揮する。さらにまた、最近の自動車用防錆鋼板をはじめとする各種表面処理鋼板製造にあつては、めつき層の化学組成や目付量を狭い目標範囲内に管理することが必要で、このためには、めつき層およびめつき浴の迅速かつ正確な分析が必須である。このように、プロセスの進歩と共に、分析にも迅速性(リアルタイム化)が要請される。各種工程でのオンライン分析技術の最近の進歩につき、各方面からの発表と活発な討論をお願いする。

2. 申込締切日 昭和 59 年 8 月 10 日 (金)

3. 申込方法 討論会参加ご希望の方は討論会申込書を下記までご請求下さい。申込用紙には必要事項ならびに申込書裏面に 400 字程度の講演のアブストラクトをお書きのうえお申し込み下さい。

4. 討論講演の採否 討論講演としての採否は、前記ご提出のアブストラクトにより検討のうえ決めさせていただきますので、あらかじめお含みおき下さい。

5. 講演前刷原稿締切日 昭和 59 年 11 月 2 日 (金)

討論講演として採用された方は、本会所定のオフセット原稿用紙 4 枚以内(表、図、写真を含め 1 ページ 6,700 字)に黒インクまたは墨をもちいて楷書で明りようにお書きのうえ、ご提出下さい。(原稿用紙 1 枚 10 円)

6. 講演テーマ・講演者の発表 「鉄と鋼」第 71 年第 1 号(昭和 60 年 1 月号)にて発表いたします。

7. 講演内容の発表 「鉄と鋼」第 71 年第 2 号(2 月号)に講演内容を掲載いたします。

8. 討論質問の公募締切日 昭和 60 年 2 月末日

前記 2 号掲載の講演内容をご覧のうえ、質問対象講演を明記のうえ、本会編集課宛ご送付下さるようお願いいたします。

申込先: 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階

日本鉄鋼協会編集課 TEL 03-279-6021 (代)

「第3回鉄鋼圧延国際会議(鋼管)」開催のお知らせ 及び論文募集

The Third International Conference on Steel Rolling (3rd Steel Rolling Conference)

主催 (社)日本鉄鋼協会

協賛 (社)日本機械学会, (社)日本塑性加工学会, VDEh, ASM ほか, 国外9団体の予定

本会では昭和55年(1980年)に第1回鉄鋼圧延国際会議(板圧延)を開催し好評を博しました。第2回はドイツ(1984年6月・形鋼, 線材)に引継がれ, 第3回は鋼管を日本でという要望に基づき, 下記により再び本会が主催することになりました。1st circular を発行し, 国内外に広く配布し, 論文の募集を行いますので, 多数のご応募をお待ちしております。

1. Main Subject

Technology of Pipe and Tube and their Application

2. Themes

1. Manufacturing Technology of Seamless Pipe and Tube
 - Recent Technology of Heating, Piercing, Rolling, Extrusion and so on
 - Modernized Pipe Making Facilities, Sensing Devices and Process Control Systems
2. Manufacturing Technology of Welded Pipe and Tube
 - Recent Technology of Forming, Welding, Post-annealing, Cold Expanding and so on
 - Modernized Pipe Making Facilities, Sensing Devices and Process Control Systems
3. Technology of Cold Rolling Rolling and Drawing
 - Recent Technology of Cold Rolling and Drawing Process
 - Their Modernized Facilities
4. Technology of Finishing, Inspection and Processing
 - Recent Technology of Heat Treatment, Upsetting, Straightening, Threading, Non-destructive Inspection and so on
 - Processing such as Bending, Fitting, Forging and so on
5. Recent Trends of New Products of Pipe and Tube for Oil and Gas Fields, Energy Transportation and Power Plants
 - Metallurgical Development of Tubular Goods
 - New Products and their Characteristics
 - New Applications and Customer's Requirements

3. 期 日 1985年(昭和60年)9月2日(月)～6日(金)

4. 場 所 経団連会館(東京・大手町)

5. 会議用語 論文発表, 討論とも英語(通訳はつきません)

6. 論文発表の申し込み方法

1. 英文 500～1000語のアブストラクト提出: 1984年12月20日締切
アブストラクトの審査後, 採否を1985年2月28日までに連絡します。
2. 論文提出期限: 1985年5月20日締切
論文は Proceedings に掲載されます。(オフセット印刷)

7. 問い合わせ先

本会議に関するお問い合わせ, 1st circular のご請求等は下記宛お願いいたします。

〒100 千代田区大手町1-9-4 経団連会館3階

(社)日本鉄鋼協会 国際課

(3rd Steel Rolling Conference 担当)

TEL 03-279-6021

第3回日向方斉学術振興交付金の希望者募集案内

申請締切日・昭和59年9月7日

本会では住友金属工業株式会社から取締役会長日向方斉氏の功績記念のため寄贈された金五千万円の資金をもつて鉄鋼関係学術振興のため「日向方斉学術振興交付金制度」を設置しております。つきましては下記により受給希望者を募集致しますので、希望者は所定の申請書様式（本協会にご請求下さい。）により応募して下さい。

記

1. 本制度の目的

大学、研究機関等にいる鉄鋼関係の若手研究者が海外で開催される国際研究集会（これに準ずるものを含む）に優れた研究成果を発表するために必要な渡航費等を支弁することを目的とする。

2. 応募資格

1) 国公立の大学、工業高等専門学校等または国公立研究機関（特殊法人を含む）に在職中または在学中の本会会員（正会員、学生会員）で、2) 国際研究集会の開催時の年齢が満40歳未満でありかつ、3) 本会会誌またはその他の学術的刊行物に研究成果の発表をしたことのある者。

3. 対象国際研究集会

昭和60年1月から昭和61年3月までに開催される国際研究集会で、技術分野は本会が春秋に行っている講演大会の範囲の集会。

4. 支弁する交付金の内容

1) 航空運賃（必要最少限のエコノミー料金）、2) 滞在費（集会開催日の前日から終了日の宿泊まで）、3) 参加登録費

5. 申請方法

本会所定の申請書様式により本人が申請する。

“記入内容の概略”

1. 住所、氏名、生年月日、所属職名、正会員・学生会員の別
2. 過去の研究業績（本会会誌またはその他の学術的刊行物への投稿論文）
3. 出席する国際研究集会の名称、主催者、会期、開催地
4. 発表する論文の主な内容
5. 参加資格（座長、招待講演者、一般講演者等の別）
6. 必要経費の概算額
7. 他機関への旅費等の申請の有無

6. 交付件数

60年分については10件以内とする。

7. 受給者の義務

1. 出席報告書の提出（原則として会誌「鉄と鋼」に掲載）
2. 発表論文の提出（著作権上可能な限り会誌「Trans. ISIJ」に掲載）

8. 申請書様式請求先及び申請書提出先

〒100 東京都千代田区大手町1丁目9番4号 経団連会館3階
社団法人 日本鉄鋼協会 総務部 庶務課 (Tel. 03-279-6021)

9. 申請書締切日

昭和59年9月7日（金）

10. 交付決定通知

交付決定者には、昭和59年10月15日までに通知し、本会会誌に氏名、発表論文題目、発表する国際研究集会名を会告する。

東海支部

若手冶金エンジニア研究会開催のお知らせ

日時：昭和59年7月19日(木)13:00~20日(金)16:00
 場所：トピー工業社員クラブ(愛知県豊橋市王ヶ崎町上原1-7, 電話 0532-47-1328)
 定員：25名, (定員になり次第締切ります。必ず事前にお申し込み下さい)
 企画：(1) 講演：「自動車用ホイールについて」
 トピー工業技術研究所所長 泉谷正隆
 (2) 討論
 (i) 鋼中酸化物・硫化物系介在物に関する化学冶金学的研究
 名大工 藤澤敏治, 鰐部吉基
 (ii) LF-RH プロセスにおける脱硫・脱酸能について
 愛知製鋼 二村直志
 (iii) 強攪拌還元精錬炉について
 大同特殊鋼 報生合治男
 参加費：7,000円(宿泊, 食事代を含む)
 申込先：(464) 名古屋市千種区不老町
 名古屋大学工学部金属・鉄鋼工学科
 藤澤敏治(電話 052-781-5111 内線 3361)

第93回塑性加工シンポジウム

「塑性加工におけるシミュレーションの適用と問題点」開催のお知らせ

日時：昭和59年10月20日(土)9:30~17:00
 会場：東京工業大学(〒152 東京都目黒区大岡山2-12-1 Tel. 03(726)1111)
 共催：日本塑性加工学会, 日本機械学会 協賛：日本鉄鋼協会, ほか
 定員：100名(定員になりしだい締切り)
 参加費：主催・協賛学会会員5000円, 非会員10000円(テキスト代含む)。
 問合・申込先：日本塑性加工学会(〒106 東京都港区六本木5-2-5 トリカンプビル3F
 電話 03(402)0849)

第27回自動制御連合講演会講演募集のお知らせ

主催：計測自動制御学会, 日本機械学会, 日本自動制御協会, 参加：日本鉄鋼協会, ほか
 開催期日：昭和59年11月14日(水)・15日(木)・16日(金)
 会場：兵庫県民会館(神戸市中央区下山手通4丁目16番3号 電話(078)321-2131)
 申込・原稿提出締切：
 昭和59年8月20日(月)必着
 講演申込金：3,000円
 問合申込先：日本自動制御協会
 〒606 京都市左京区吉田河原町14番地 近畿地方発明センタービル内 電話(075)751-6413(代)

表面硬化処理鋼の機械的性質シンポジウム
開催のお知らせ

主催：日本熱処理技術協会 後援：本会ほか
 日時：昭和59年9月21日(金), 22日(土)9:30~17:30
 会場：工学院大学新館8階(東京都新宿区西新宿1-24-2 電話 03-342-1211)
 参加費：主催, 後援学会員6,000円, それ以外10,000円(講演論文集1冊含む)
 定員：100名
 問合・申込先：日本熱処理技術協会
 (〒150 東京都渋谷区神泉8-2 神泉ビル4階 電話 03-461-7116)

第41回金属表面アカデミック研究会討論会

—ニューセラミックプレーティング—

主催：金属表面技術協会 協賛：本会ほか
 日時：昭和59年10月16日(火)13:30~17:00
 会場：名古屋工業大学102教室(名古屋市昭和区御器所町 電話 052-732-2111)
 問合先：金属表面技術協会(〒101 東京都千代田区神田岩本町2番地 共同ビル 電話 03-252-3286)

第22回高温強度シンポジウム講演募集

主催：日本材料学会 協賛：日本鉄鋼協会, ほか
 期日：昭和59年11月6日(火), 7日(水)
 会場：京大会館101号(京都市左京区吉田河原町15-9 Tel. (075)751-8311)
 講演申込締切：7月20日(金)
 前刷原稿締切：9月17日(月)
 問合・申込先：日本材料学会高温強度シンポジウム係
 (〒606 京都市左京区吉田泉殿町1の101 Tel. (075)761-5321)

第7回工業教育に関する講演会の講演募集

主催：日本工業教育協会 協賛：日本鉄鋼協会, ほか
 日時：昭和59年12月8日(土)午前10時~午後4時30分
 場所：工学院大学(新宿区西新宿1-24-2)
 講演テーマ：工業教育に関する論文・論説および事例報告(含企業内教育)
 講演時間：1題目につき講演15分, 討議5分(予定)
 講演申込・締切：昭和59年8月20日(月)必着
 問合・申込先：日本工業教育協会(〒105 東京都港区新橋2-19-10 蔵前工業会館内 電話(03)571-1720)
 講演予稿締切：10月20日(土)必着

第 31 回腐食防食討論会講演募集

主催 腐食防食協会 協賛 日本鉄鋼協会外
 日時 昭和 59 年 10 月 14 日(日)~16 日(火)
 場所 横浜国立大学工学部講義棟
 〒240 横浜市保土ヶ谷区常盤台 156
 電話 045-335-1451
 講演申込締切 7 月 14 日(土)
 主題 (1) 腐食事例と対策および現場的問題点
 (2) 腐食防食の基礎研究と実際への応用
 参加費 主催協賛団体会員 6000 円 会員外 7000 円
 問合せ先 腐食防食協会
 東京都千代田区神田神保町 2-23
 電話 03-261-3275

国際高強度低合金鋼会議
HSLA STEELS '85

主催 The Chinese Society of Metals
 China Science and Technology Exchange Centre
 協賛 日本鉄鋼協会ほか
 期日 1985 年 11 月 4 日~7 日
 場所 Beijing (Peking), China
 アブストラクト 1) 語数: 300~500 語 (英文)
 2) 締切日: 1984 年 10 月 31 日
 論文 1) 語数: 約 5000 語以内 (英文)
 2) 締切日: 1985 年 4 月 30 日
 Call for Papers の詳細をご希望の方は本会国際課 (03-279-6021) までご連絡下さい。

「昭和59年度放射線取扱主任者試験施行について」
のお知らせ

- 試験の日程
 (第 1 種放射線取扱主任者試験)
 昭和59年 8 月 22 日(水)~8 月 23 日(木) 2 日間
 (第 2 種 (一般) 放射線取扱主任者試験)
 昭和59年 8 月 24 日(金) 1 日間
- 試験地及び試験場所

| 試験地 | 試験場所 |
|-----|----------------------------|
| 仙台 | 東北大学(理学部) 仙台市荒巻字青葉 |
| 東京 | 青山学院大学 東京都渋谷区渋谷 4 の 4 の 25 |

大阪 大阪市立大学(杉本町学舎)
 大阪市住吉区杉本 3 の 3 の 138
 福岡 九州大学(工学部)
 福岡市東区箱崎 6 の 10 の 1

- 試験申込受付期間
 昭和 59 年 5 月 21 日(月)~6 月 30 日(土)
- 受験手続 その他の問い合わせ先
 財団法人 放射線安全技術センター
 住所 〒112 東京都文京区白山 5 丁目 1 番 3-101 号
 東京富山会館ビル 6 階
 電話 (03) 814-7481

書 評

液体試料の発光分光分析
ICP を中心として

高橋 務・村山精一編

最近、液体試料の分析技術として原子吸光法に代わって高周波誘導結合型プラズマ (ICP) 発光分光分析法がひろく一般に用いられている。しかし ICP は、まだ発展途上にあり装置なども日進月歩の状態であり、今後のいつその発展が期待される技術である。

本書は、ICP 利用者に対し実務的知識と共に ICP の基本特性に関する知見を与える目的で以下のように構成されている。

- ICP の生成とその物理的特性
- ICP の分析化学的特性
- ICP の装置

- 試料処理と測定上の問題点
- 溶融物質の発光分光分析
 付録 1. ICP 発光用波長表
 付録 2. ICP スペクトル写真
 これから ICP を導入しようと考えている技術者には 4 章が参考となろう。固体試料の溶液化、濃縮、分離などの試料の前処理、標準溶液の調製、分析波長と感度などが多くの試料例について述べられている。また、ICP の本質について深く突っこんで究明したい研究者には 1 章、2 章が参考となろう。5 章は必ずしも ICP を用いる技術ではないが、溶融物質の発光分光分析について述べている。この技術は、鉄、アルミニウムなど金属の精錬プロセス制御のための分析として着目されており、その現状を概括し将来を展望しているのは、関係技術者にとって大いに参考となろう。(大坪 孝至)

日本分光学会 測定法シリーズ 5
 定価 3,400 円・A 5 判・203 ページ
 1983 年 10 月 10 日 学会出版センター発行